

7/7(火)、「English Chapel」

Scripture: “Philippians 3:12-13”

聖書箇所:新約聖書、フィリピの信徒への手紙 3 章 12-13 節

奨励題: “A Restless Spirit ” 「落ち着きのない魂」

今回は「English Chapel」です。これは、司会者は英語で進行し、讃美歌もお祈りも基本的に英語で行われるチャペルアワーです。メッセージは、キャリアデザイン学科准教授のリチャード・マハー先生でした。グラミー賞最多受賞記録を持つアイルランド出身のロックバンド、「U2」の楽曲を利用しての解説です。「人生は、思う様にならないことが多く悩みは尽きない。それでも大丈夫だ、救いを求め続けることが必要なのだ。」生きることの本質を問う、哲学的なメッセージに、出席者は大いに勇気づけられました。

Summary / 要約

I introduce the song, “I still Haven’t Found What I’m Looking For,” by the Irish group U2 and approach the lyrics from a Christian point of view. Although U2 does not write Christian music, their songs have spiritual and Christian significance. The first verse describes someone who has experienced many things, but still feels dissatisfied. It is a feeling all humans share, in all times and in all places. It is an old, old theme, told in stories and dreams, where something precious is lost, and the search for it is frustrating. What is being sought for is meaning and purpose in life. The song tells us that it is OK if we have not found what we are looking for and encourages us to continue searching. The second verse includes more experiences; however, the result is the same: dissatisfaction. All of the experiences leave the narrator wanting more. They feel cold, empty, and broken. The song’s Christian themes are very clear in the third verse. The narrator sings about the great Christian hope: the time when God’s Kingdom finally comes and everything is perfect. There is also a line about Christ’s passion and crucifixion. The narrator declares, “You know I believe it.” Yet, the very next line is “but I still haven’t found what I’m looking for.”

The song’s power lies in the paradox of belief and doubt simultaneously. The song tells us that it is OK to believe and doubt at the same time. Bono, the lyricist and singer has said the song is about doubt more than faith; he’s “still running,” the search continues. It is about the *journey* of life and faith more than the destination. The song ends with a positive message. Although the narrator continues searching, they search as a person with hope. It is a celebration of searching and moving forward.

Both Bono and the Edge (guitarist and composer) have said it is a Gospel song. Bono calls it a “gospel song with a restless spirit.” Gospel music was born from brokenness

and pain, but also from hope. Bono thought Gospel would be the best musical style for a song about the never-ending search for oneness with God. So, the band visited a church in Harlem, the New York City neighborhood famous for Black culture, and made a recording.

In conclusion, everyone is looking for something. Let us go forward and look with hope. And while we are searching, sometimes we find a hint in song.

アイルランドの音楽バンド、U2 の曲「I Still Haven't Found What I'm Looking For」を紹介します。そして、基督教の観点からその歌詞を考察してみましょう。U2 は基督教の音楽ばかりを制作しているわけではありませんが、彼らの曲はスピリチュアルで、基督教的な意義を感じさせます。

一番の歌詞は、多くの経験を積んできたにもかかわらず、満たされない気持ちを抱えている人物が描かれています。これは、時代や場所を問わず、すべての人が共有する感情でしょう。これは、物語や夢の中で語られてきた古くからのテーマであり、大切な何かを失い、それを探し求める過程で苛立ちを覚えるという内容です。そこで求められているのは、人生の意味と目的です。この曲は、探しているものが見つからなくても大丈夫だと伝え、さらに、探し続けるようにと私たちに励ましています。

二番の歌詞にはさらに多くの経験が描かれていますが、その結果は同じです。すなわち、不満です。あらゆる経験を経たにもかかわらず、語り手はさらに何かへの渴望を続けます。彼らは、冷たく空虚で、打ち砕かれたような感覚を抱いています。

三番の歌詞のサビのところでは、この曲の基督教的なテーマがとても明確に表れています。基督教の偉大な希望 — 全てが成し遂げられ、神の国がついに訪れる時 — について歌っています。また、キリストの受難と磔刑について言及する一節もあります。そして「あなたも知っている通り、僕はそれを信じている」と宣言するのです。しかし、その直後に「それでも、僕はまだ探しているものを見つけられてはいない」と歌うのです。

この曲の力は、信じる事と疑いを持つ事が同時に存在するというパラドックス（矛盾する命題・逆説）にあります。そして、信じる気持ちと疑う気持ちを同時に抱えていても構わないのだと私たちに伝えてくれます。作詞家でありボーカリストのボノは、この曲は「信仰」というより、「疑い」について歌ったものだと言っています。彼は今も「行動し続けています」、探求は続いているのです。この曲は、目的地というより、人生と信仰の旅そのものについて歌っているのです。そして、前向きなメッセージで締めくくられています。語り手は探し続けています、希望を抱いた人として探求を続けているのです。これは、探し求め、前進し続けることを称える歌なのです。

ボノとエッジ(ギタリスト兼作曲家)は共に、この曲をゴスペルソングだと語っています。ボノはこれを「落ち着きのない魂を持ったゴスペルソング」と呼んでいます。ゴスペル音楽は、傷つきや痛みから生まれたものですが、同時に希望からも生まれたものであります。ボノは、神との一体感を求め、終わりのない探求を描いた曲として、ゴスペルは最適な音楽スタイルだと考えていました。そこでバンドは、ブラック・カルチャーで有名なニューヨーク市のハーレム地区にある教会を訪れ、レコーディングを行ったのです。

最後に、「誰もが何かを探し求めています。希望を持って前進し、探し続けよう。そして、探している最中に、時には歌の中に、そのヒントになるものと出会うこともあるのです。」